



日本金銭機械株式会社 (証券コード:6418)

2016年3月期 第2四半期累計実績

2015年11月



・2016年3月期 第2四半期累計業績概要	..2~5
・事業セグメント別業績推移・トピックス	..6~16
・2016年3月期 下半期の取組み	..17
・2016年3月期 通期業績予想	..18,19
・参考資料	..20~38

- ・2016年3月期 上半期実績の概要
- ・下半期の取組みと進行年度の見込み

を中心に、ご説明いたします。

2016年3月期第2四半期累計 業績概要



単位:百万円

	2015/3 2Q	2016/3 2Q	前年同期比		2016/3 2Q	計画比	
	累計実績	累計実績	率	増減額	累計計画	率	増減額
売上高	13,324	14,501	+ 8.8%	+1,176	15,500	- 6.4%	-999
グローバルゲーミング	6,287	7,795	+24.0%	+1,508	8,100	- 3.8%	-305
(内数)プリンター事業	—	(2,230)		(+2,230)	(2,000)		(+230)
海外コマース	1,431	2,025	+41.5%	+593	2,150	- 5.8%	-125
国内コマース	1,328	943	-29.0%	-385	1,150	-18.0%	-207
遊技場向機器	4,276	3,736	-12.6%	-539	4,100	- 8.9%	-364
営業利益	5.4% 723	4.3% 618	-14.5%	-104	5.2% 800	-22.8%	-182
経常利益	7.9% 1,057	4.9% 705	-33.3%	-352	5.8% 900	-21.7%	-195
親会社株主帰属 四半期純利益	5.7% 760	3.2% 464	-38.9%	-295	3.9% 600	-22.7%	-136

※プリンター事業:前期は9月(3Q)～

平均為替レート

米ドル	102.22円	120.50円	+18.28円	120.00円	+ 0.50円
ユーロ	139.84円	133.85円	- 5.99円	140.00円	- 6.15円

前年同期比では、プリンター事業の寄与もあり「増収・減益」、
計画比では、プリンターの寄与があったものの各セグメント未達により「減収・減益」

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

2

2016年3月期 上半期の業績は、

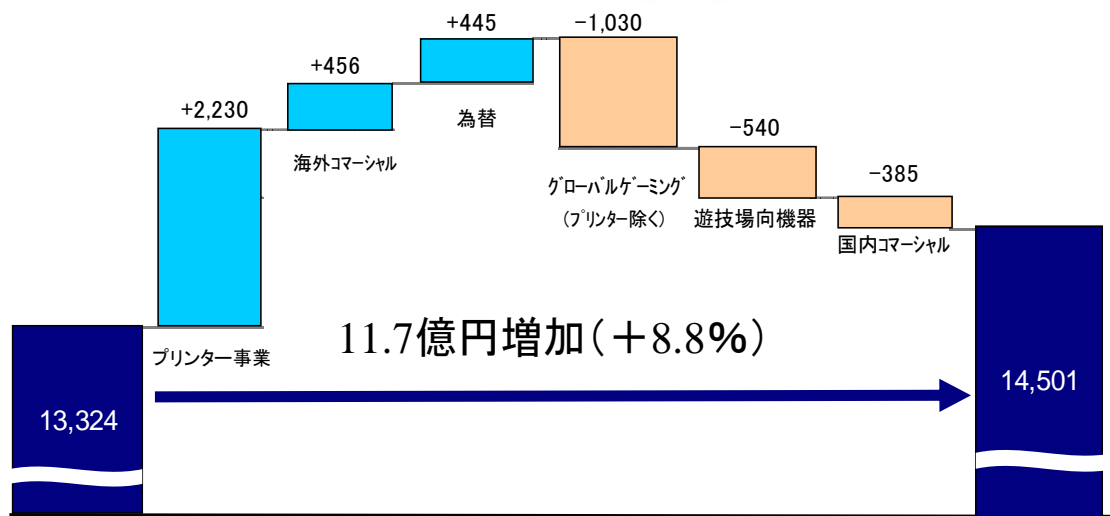
売上高は、北米ゲーミング市場や国内遊技場向市場での厳しい市場環境を反映して減少しましたが、前期の期中に買収いたしましたプリンター事業が大きく寄与すると共に、北米の金融市場向けの受注が回復し、前年同期比8.8%増の145億1百万円となりました。

利益面では欧州地域におけるユーロと米ドルの為替変動による要因や販管費の増加により、営業利益は前年同期比14.5%減少の6億18百万円となりました。

経常利益は、前年同期に営業外損益で、外貨建資産の時価評価などによる為替差益を4億53百万円計上していた反動もあり、前年同期比33.3%減の7億5百万円、第2四半期累計の純利益も38.9%減の4億64百万円となりました。

売上高増減要因（前年同期比）

単位：百万円



2015/3 2Q
累計実績

- プリンター事業の業績寄与、海外コマーシャルの需要回復
- 為替で米ドルが円安で推移(\$ +610、€ △165)
- ✖ 海外ゲーミング、遊技場向は前年同期に比べ、市場環境厳しく減収

2016/3 2Q
累計実績

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

3

売上高の前年同期比での主な増減要因としては、
 海外ゲーミング、国内遊技場向機器、及び国内コマーシャルで減収となりましたが、プリンター事業の業績への寄与や海外コマーシャルでの需要回復、また前年同期より米ドルが18円円安であったこともプラスの要因となっております。

営業利益増減要因（前年同期比）



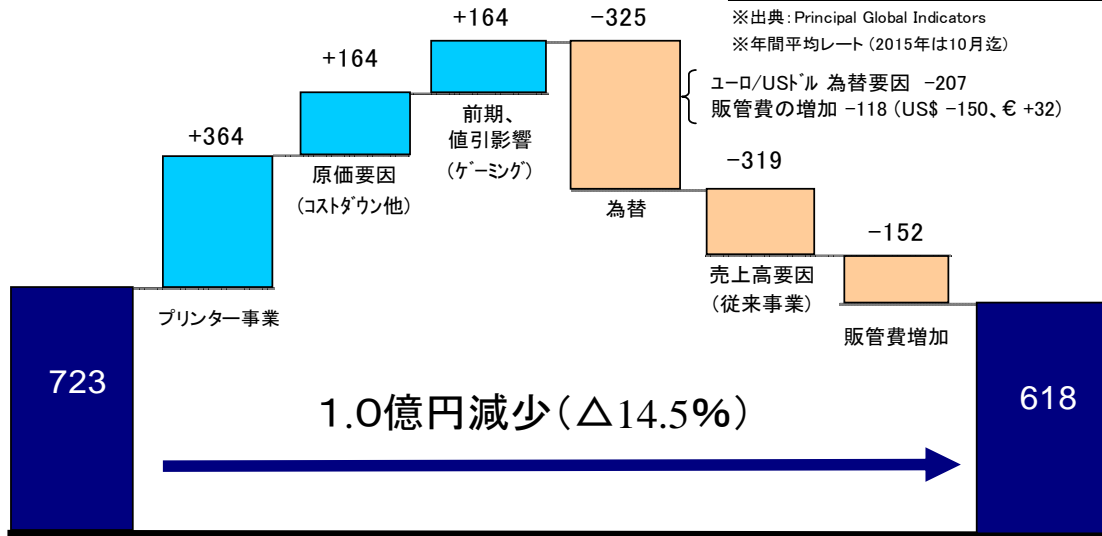
単位:百万円

ユーロ/USDの推移

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1.326	1.391	1.285	1.328	1.329	1.114

※出典: Principal Global Indicators

※年間平均レート (2015年は10月迄)



ユーロ/USD 為替要因 -207
 販管費の増加 -118 (US\$ -150、€ +32)

2015/3 2Q
累計実績

減収要因に加えて、為替要因、販管費増加により減益

2016/3 2Q
累計実績

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

4

営業利益の前年同期比での主な増減要因としては、
 減収要因、販管費の増加に加えて、欧州地域においては製品の仕入
 を米ドルで、そして販売を主にユーロで行っているため、ユーロと米ドル
 の為替レート変動が、利益圧迫の要因となりました。

2016年3月期第2四半期累計業績（計画比）

単位：百万円 

	2016/3 2Q累計実績			2016/3 2Q累計計画			増減	
	合計	従来事業	プリンター事業	合計	従来事業	プリンター事業	従来事業	プリンター事業
売上高	14,501	12,271	2,230	15,500	13,500	2,000	△ 1,229	230
	40.5%	38.7%	50.8%	38.5%	36.8%	50.0%	1.9%	0.8%
売上総利益	5,880	4,748	1,132	5,965	4,965	1,000	△ 217	132
販管費	5,261	4,493	768	5,165	4,315	850	178	△ 82
	4.3%	2.1%	16.3%	5.2%	4.8%	7.5%	-2.7%	8.8%
営業利益	618	254	364	800	650	150	△ 396	214
営業外損益	86	156	△ 70	100	170	△ 70	△ 14	0
	4.9%	3.3%	13.2%	5.8%	6.1%	4.0%	-2.8%	9.2%
経常利益	705	411	294	900	820	80	△ 409	214
特別損益	△ 1			0				
税引前利益	704			900				
法人税等	239			300				
親会社株主帰属 四半期純利益	3.2% 464			3.9% 600				

プリンター事業は順調に推移し、買収効果が業績に大きく貢献

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

5

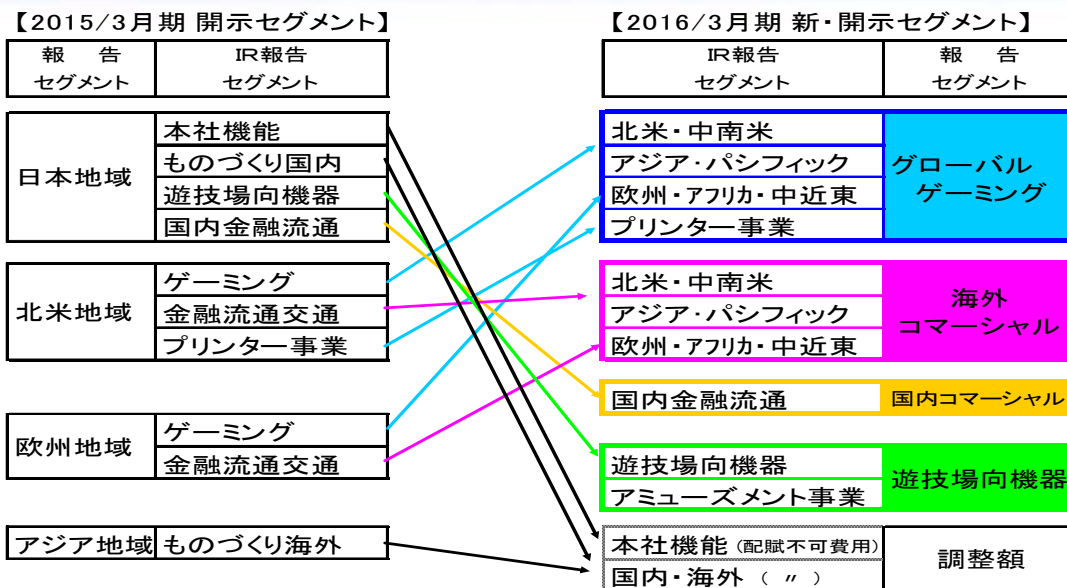
進行年度の上半期の業績を「従来事業」と「プリンター事業」に区分し、計画比で表示しております。

上半期の実績としては、2ページでもご説明しましたようにグローバルゲーミング、及び国内遊技場向機器市場で、景況感の不透明さや設備投資意欲の低迷等の厳しい事業環境を反映して、総じて需要が低調であったため、期初計画比では未達となりました。

しかし、前期から取り組んできた施策のうち、買収したプリンター事業は順調に推移しており、即効的な効果として、上半期の業績に大きく貢献しております。

進行年度の通期業績、また来期以降に向けても、その貢献度は大いに期待できるものと考えております。

開示セグメントの変更について



国内外のコマーシャル市場における新商材の開発、新規のビジネス領域や新規顧客の開拓と需要の創出に向けて、「コマーシャル(海外・国内)」を独立させ、「グローバルゲーミング」、「遊技場向機器」の4つのセグメントで『新・中期経営計画』達成に向けた活動を推進していく

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

6

進行年度より、「開示セグメント」を変更いたしましたので、ご説明いたします。

今まで、「日本」、「北米」、「欧州」、「アジア」といった地域別での区分としておりましたが、進行年度より、国内外のコマーシャル市場における新商材の開発と新しいビジネス領域・新規顧客の開拓と需要の創出に向けて、「グローバルコマーシャル」部門を発展的に独立させたことに伴い、「グローバルゲーミング」、「海外コマーシャル」、「国内コマーシャル」、「遊技場向機器」の4つのセグメントでの開示といたします。

具体的には、資料のように、今までの地域別区分から、各地域のゲーミング、コマーシャル事業をとりまとめるとともに、よりご理解いただきやすいように、各セグメントについてはさらに「北米・中南米」、「アジア・パシフィック」、「欧州・アフリカ・中近東」といった市場に細分化して、ご説明いたします。

2016年3月期第2四半期累計 新セグメント別業績



単位:百万円

	売上高			営業利益		
	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画
グローバルゲーミング	6,287	7,795	8,100	17.2%	15.7%	13.6%
海外コマース	1,431	2,025	2,150	18.0%	17.9%	14.0%
国内コマース	1,328	943	1,150	13.8%	4.6%	7.0%
遊技場向機器	4,276	3,736	4,100	0.3%	0.5%	0.5%
調整額	—	—	—	△ 808	△ 1,030	△ 700
連 結	13,324	14,501	15,500	5.4%	4.3%	5.2%
				723	618	800

本年4月1日付にて、「グローバルコマース本部」を新設したことに伴い、セグメント区分の見直しを行い、報告セグメントを従来の「日本地域」「北米地域」「欧州地域」「アジア地域」の4区分から、「グローバルゲーミング」「海外コマース」「国内コマース」「遊技場向機器」の4区分に変更。また、これに伴いセグメント利益を従来の「経常利益ベース」の数値から、「営業利益ベース」の数値に変更しております。

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

7

新しいセグメント別での業績については、セグメント区分の見直しにあわせて、セグメント利益を、従来の「経常利益ベース」から、「営業利益ベース」に変更しております。

グローバルゲーミング

セグメント別業績推移



区分		2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	比較増減			
					前年同期比		計画比	
北米・中南米	外貨(千米\$)	30,390	19,851	23,150	-34.7%	-10,539	-14.3%	-3,299
	邦貨(百万円)	3,106	2,392	2,780		-714		-388
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	4,454	3,717	4,580	-16.5%	-737	-18.8%	-863
	邦貨(百万円)	455	448	550		-7		-102
欧州・アフリカ ・中近東	外貨(千€)	19,490	20,364	19,800	+4.5%	+874	+2.8%	+564
	邦貨(百万円)	2,725	2,725	2,770		0		-45
プリンター事業	外貨(千米\$)	-	18,506	16,670	-	+18,506	+11.0%	+1,836
	邦貨(百万円)	-	2,230	2,000		+2,230		+230
計	売上高(百万円)	6,287	7,795	8,100	+24.0%	+1,508	-3.8%	-305
平均為替レート	米ドル	102.22円	120.50円	120.00円		+18.28円		+0.50円
	ユーロ	139.84円	133.85円	140.00円		-5.99円		-6.15円

【上半期総括】

- ・北米・中南米 新規カジノ向需要が低調に推移、旧タイプからのリプレイス需要も一巡
- ・アジアパシフィック 豪での市場停滞もあり、前年同期比減収
- ・欧州 他社のリサイクルユニット上市による影響が出始めているものの、総じて堅調に推移
- ・プリンター 計画を上回り、順調に推移

プリンター事業は計画を上回って推移するが、北米事業が前期比で低調

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

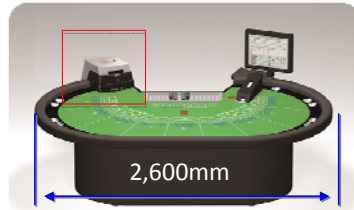
8

グローバルゲーミング 中期戦略テーマの進捗

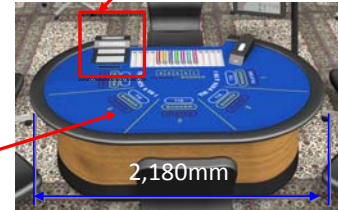


◇テーブルゲーム市場の開拓

従来製品



改良品



マカオ市場でのテーブルサイズがコンパクト化したことに関連したサイズ変更に関しては、複数のオペレーターと継続して実用化に向けた活動を継続して進めている。

◇プリンター事業とのシナジー効果の実現

JCM、フューチャーロジック両社の顧客ルートを通じたクロスセル機会の増加もあり、売上は計画を上回って順調に推移。

欧州AWP(アワード・ウイズ・プライズ)市場に向けた新製品(Ticket to Go)が、英国内の大手AWPアーケイドグループに導入され、順調に稼動。他店舗からも導入に向けた引き合いの依頼が寄せられている。

◇カジノ運営システム・ビジネスへの展開

北米の新規オープン予定(2015年4Q)のカジノでの採用に向けて、データ検証、問題点への対応を6月から実施中、2016年度からの本格的な販売開始を目指している。

◇ネバダ州、スキル要素をとり入れたスロットマシンを合法化

本年5月21日にネバダ州知事はスキル、技術要素を盛り込んだスロットマシンを合法化した。その後、約4ヶ月で規制作りが進み、9月17日にネバダ州ゲーミング委員会はスキル要素が盛り込まれたスロットマシンの規制を承認。これまでの法制度では、カジノゲーム機において技術介入の余地を制限してきたため、カジノゲームの結果は、主として'運'で決定されていた。

今回の規制緩和の目的は、主に若者のゲーム離れへの対応と言われている。若者はこれまでの運まかせのゲームから距離を置き始めており、彼らが好む電子ゲームにおけるスキルや技術を導入することが決定された模様。

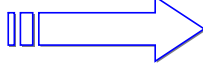
今年も9月29日から10月1日までの3日間、ラスベガスで世界最大のカジノ産業総合展示会であるグローバル・ゲーミング・エキスポ(G2E)が開催されたが、そのなかで複数のメーカーがスキル要素を取り入れたスロットマシンの試作機を出展していた。2016年には、ネバダ州のカジノフロアに導入される見通しである。

中長期的には、スキル要素のスロットマシンが、ゲーム離れを食い止める可能性に期待がもたれている。

通常時

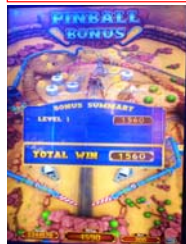


新しい機能として、
'ボーナスゲーム'
になると画面が
切り替わる



スキル要素の
取り込み
↓
'ボーナスゲーム'
の多様化

スロットマシンA
ボーナスゲーム移行時



ピンボールの画面で
'ボーナスポイント'をゲット

スロットマシンB
ボーナスゲーム移行時



インベーダーゲーム

スロットマシンC
ボーナスゲーム移行時



音符どおりに演奏すると
'ボーナスポイント'をゲット

区分		2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	比較増減			
					前年同期比		計画比	
北米・中南米	外貨 (千米\$)	3,938	7,867	7,500	+99.8%	+3,929	+ 4.9%	+367
	邦貨 (百万円)	403	947	900		+545		+47
アジア・ パシフィック	外貨 (千米\$)	1,531	1,781	2,270	+16.3%	+250	-21.5%	-489
	邦貨 (百万円)	156	215	270		+59		-55
欧州・アフリカ・ 中近東	外貨 (千€)	6,240	6,446	7,000	+ 3.3%	+206	- 7.9%	-554
	邦貨 (百万円)	873	863	980		-10		-117
計	売上高 (百万円)	1,431	2,025	2,150	+41.5%	+593	- 5.8%	-125
平均為替レート	米ドル	102.22円	120.50円	120.00円		+18.28円		+ 0.50円
	ユーロ	139.84円	133.85円	140.00円		- 5.99円		- 6.15円

【上半期総括】

- ・北米・中南米 前1Qに金融OEM向販売が納入先の生産拠点移転に伴い、殆ど計上がなかったが、進行年度は計画どおりに進捗
- ・アジア・パシフィック 中国以外は低調なスタート
- ・欧州 イタリアのガソリンスタンド、駐車場向などの需要が堅調に推移。しかし、政治・経済的な事情によるロシア・CIS市場向が低調に推移したこともあり、計画未達

北米、欧州地域での需要は総じて堅調に推移

海外コマmercial 中期戦略テーマの進捗



◇『インド市場向けビジネス』について

◇交通分野 ～ 鉄道券売機

初回ロット(330台)のうち、195台を6月末に売上計上。
下半期に残りを販売の見込み。
第2回入札は、来年年明けに実施予定(台数 約1,500台)
であり、受注獲得に引き続き取り組む。

◇金融分野

最初の受注を受け、3Qに販売の見込み。



弊社ユニットが搭載された券売機
が使用されている様子

◇『ロシア市場向けビジネス』について

7月1日からロシアで使用される各種精算機に搭載される
紙幣識別機には、中央銀行の認証が必要となったが、当市場
に向けた「TBV」(金融、交通、リテール向製品)、
「DBV」(自販機、駐車場、各種キオスク向製品)という
識別ユニット2機種が合格、今後の販売攻勢に期待。



TBV

DBV

区分	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	比較増減	
				前年同期比	計画比
国内金融流通	1,328	943	1,150	-29.0% -385	-18.0% -207

【上半期総括】

前期好調に推移したコンビニATM向、釣銭機ユニットの大口個別需要が一巡したことにより、減収

コンビニATM向	346	110	140	△ 236	△ 30
釣銭機	184	31	123	△ 153	△ 92

前年同期比、計画比で2ケタの減収

国内コマース 中期戦略テーマの進捗



◇外貨両替機の新製品の販売を開始

日本円と複数種類の外貨との双方向の両替を1台で実現できる自動外貨両替機を開発し、9月から販売を開始いたしました。

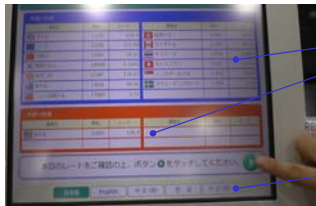
【主な特長と狙い】

大容量なのに省スペース、豊富な外国通貨に対応可能な外貨買取、外貨販売が可能。訪日外国人旅行者、日本人旅行者の双方に対応することができます。

世界中には多種多様な紙幣が存在しますが、弊社グループが世界市場で培ってきた鑑別、識別技術を活かして、当製品は13種類の外貨の設定が可能であり、硬貨も1円、10円、100円、500円の4金種の払出しが可能です。

金融機関の窓口だけでなく、駅、宿泊施設、商業施設、観光地などへの設置の拡充により、訪日外国人旅行者の利便性の向上を目指してまいります。

【操作画面例】



外貨⇒円貨 13金種
円貨⇒外貨 1金種
計 14金種 に対応

英語、中国語(簡体字、繁体字)、
韓国語 に標準対応、
希望する言語を選択可能

新・外貨両替機



外観



遊技場向機器

セグメント別業績推移

単位:百万円 

区 分	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	比 較 増 減			
				前年同期比	計画比		
遊技場向機器	3,968	3,446	3,780	-13.2%	-8.8%	-522	-334
アミューズメント	308	290	320	-5.8%	-9.4%	-18	-30
計	4,276	3,736	4,100	-12.6%	-8.9%	-539	-364

(補足) アミューズメント事業 …… ゲームセンターの運営(上野店(台東区)、川崎店(川崎市))

【上半期総括】

年末にかけて予定されているパチンコ(11月～)、パチスロ(12月～)遊技台の新たな規制を控えて、新規の営業台の動きも少なく、また新規出店や大型改装の件数の減少による影響もあり、周辺機器需要は低調に推移。

前年同期比で2ケタの減収

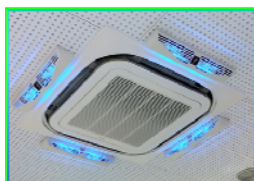
◇遊技場関連機器市場の動向

矢野経済研究所が実施した2014年度「パチンコ関連機器に関する調査」によると、周辺機器市場は1,538億円と、前年度比△12.2%のマイナス成長となった模様。パチンコ機市場は前年度比△1.2%の6,437億円と5年連続のマイナス成長、またここ数年市場を下支えしていたパチスロ市場も同△10.3%の4,256億円となり、5年振りに前年を割り込み、パチンコ関連機器の市場規模は前年度比△6.0%の1兆2,232億円と2年連続の減少となりました。遊技機に付随する関連設備機器市場は、遊技機の落ち込みと同調する形となり、大型設備機器も新規出店や大型改装の減少傾向の影響を受けたと考えられます。

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
新規店舗数(店)	279	247	249	197	207	195	173	81
周辺機器市場規模(億円)	1,632	1,592	1,505	1,623	1,743	1,750	1,538	

・「新規店舗数」は、『全日遊連 組合加盟店舗調査』より。対象期間は1～12月、H27年度は8月までの実績

◇新・PCI(プラズマ・クラスターイオン発生ユニット)の導入がスタート



「ホール向けプラズマ・クラスターイオン発生ユニット」の新タイプの導入がスタート。新製品は、機能面で従来品よりイオン発生量がアップしたほか、カセットの中に青色LEDを組み込むことで、空気環境の改善を見ただ目でアピールできるようになりました。

導入店からは、「LEDの発光により、空気のきれいさが視覚的にアピールできるようになったことで、空気環境に配慮している店だということが理解してもらいやすくなった」と好評を頂いております。

2016年3月期 下半期の取組み



【下半期のセグメント別の取組み】

グローバルゲーミング	・プリンター事業の買収効果を更に高めるための施策の推進 ・次年度以降に向けたアジア市場、及びシステム事業への展開を推進
海外コマース	・次年度以降に向けたアジア市場、ロシア市場への展開を推進 ・友好的な販売提携先との関係強化、事業提携、アライアンスによる販路拡大を推進
国内コマース	・釣銭機の新規顧客に向けた提案を推進 ・販売を開始した外貨両替機の展開を推進
遊技場向機器	・製品仕様が追加となったメダル補給システム、メダル貸機、景品払出し機、PCIを投入し、これらを軸とした案件の取り込みに注力

新たなビジネス領域の開拓、市場ニーズに即した商品やシステムの提供力の強化を推進

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

17

セグメント別での下半期の取組みとしては、

弊社を取り巻く事業環境は厳しさが続くものと予想されますが、そのような状況を打開すべく本業での販路拡大はもとより、新たなビジネス領域の開拓、市場のニーズに即した商品やシステムの提供力の強化を推進してまいります。

また、

- ・プリンター事業の買収効果を更に高めるための施策の推進
- ・友好的な販売提携先との関係強化、事業提携、M&A等、様々なアライアンス案件を積極的に展開するなどの収益基盤の更なる強化をこの下半期より、来期に向けて積極的に推進してまいります。

2016年3月期 連結業績予想の前提

単位: 百万円 

	2016/3 計画			2016/3 予想			下半期予想 - 上半期実績
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期予想	通期	
売上高	15,500	15,700	31,200	14,501	16,699	31,200	2,198
グローバルゲーミング	8,100	7,150	15,250	7,795	8,305	16,100	510
(内数) プリンター事業	(2,000)	(2,300)	(4,300)	(2,230)	(2,620)	(4,850)	(390)
海外コマーシャル	2,150	2,300	4,450	2,025	2,275	4,300	250
国内コマーシャル	1,150	1,250	2,400	943	1,507	2,450	563
遊技場向機器	4,150	4,950	9,100	3,736	4,614	8,350	877

- ・グローバルゲーミング
 - ・北米市場では低調ながらも、上半期に比べて市場に動きが出てきたことや豪市場での受注もあり、上半期を上回る見込み
 - ・プリンター事業は、医療分野での受注もあり、下半期に更に伸長する見込み
- ・海外コマーシャル
 - ・北米市場での金融向、アジア地域での中国市場向が下半期も好調に推移
- ・国内コマーシャル
 - ・釣銭機の手取引先での採用、外貨両替機の販売を見込む
- ・遊技場向機器
 - ・自主規制に適應した遊技台への入替えに伴う需要に期待

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

18

進行年度の業績予想について、下半期のセグメント別の予想売上高を示しております。

『グローバルゲーミング』では、北米市場で上半期に比べて動きがでてきたことや豪市場で下半期に挽回の見込みがあることから、上半期を上回る予想をしております。

プリンター事業では、医療分野での受注もあって伸長する予想をしております。また本事業は収益性が高いことから、利益面での貢献も見込んでおります。

『海外コマーシャル』では、ロシアなどで未達を予想するものの、北米の金融OEM向やアジア地域では下半期も計画並に順調な推移を見込んでおります。

『国内コマーシャル』では、釣銭機で大手チェーンでの採用や販売を開始した外貨両替機の売上を見込んでおり、また『遊技場向機器』は、自主規制に適應した遊技台への入替えに伴う周辺機器の需要に期待をしております。

2016年3月期 連結業績予想

	2015/3 実績			2016/3 予想			通期比	
	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期予想	通期	率	増減額
売上高	13,324	14,593	27,917	14,501	16,699	31,200	+11.8%	3,283
営業利益	5.4% 723	3.9% 562	4.6% 1,285	4.3% 618	7.7% 1,282	6.1% 1,900	+47.9%	615
営業外損益	334	547	881	86	14	100		△ 781
為替差益	453	587	1,040	51	△ 51	0		△1,040
買取関連費用	△ 177	△ 25	△ 202	-	-	-		+202
経常利益	7.9% 1,057	7.6% 1,109	7.8% 2,166	4.9% 705	7.8% 1,295	6.4% 2,000	- 7.7%	△ 166
当期純利益	5.7% 760	5.0% 726	5.3% 1,486	3.2% 464	5.6% 936	4.5% 1,400	- 5.8%	△ 86
平均為替レート								
米ドル	102.22円	110.70円	106.46円	120.50円	120.84円	120.68円		+14.22 円
ユーロ	139.84円	140.82円	140.33円	133.85円	137.80円	135.82円		- 4.51 円

前頁のような部門別での売上見込の前提のもと、進行年度の業績予想を、上記のとおりいたしました。

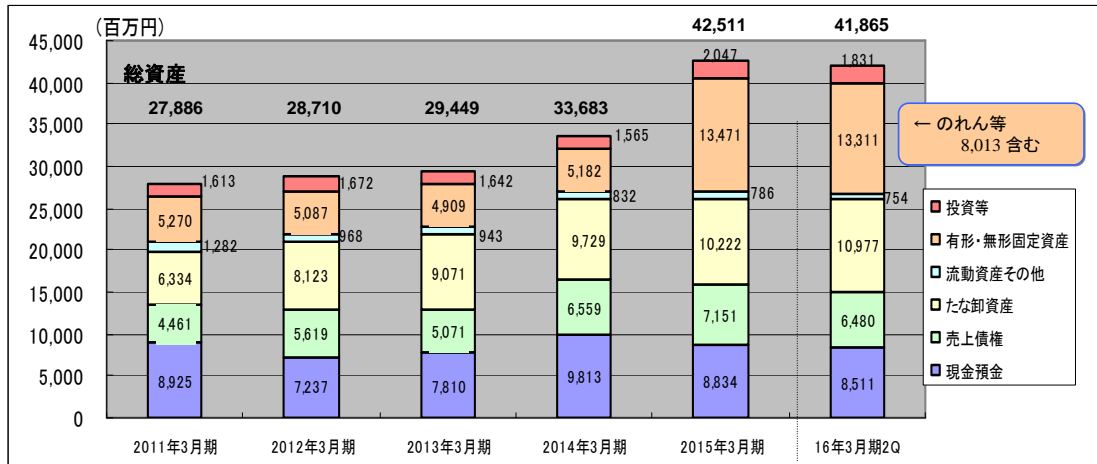
上半期に比べて、増収と収益性の高いプリンター事業の伸長による利益貢献により、営業利益率の改善を予想しております。

ただ、前期に収益を押し上げていた為替差益の計上を見込んでいないこともあり、残念ながら純利益では減益となる見込みをしておりますが、売上高、営業利益段階では、予想を達成できるように、17ページでご説明いたしました施策を推進してまいります。

参考資料

・貸借対照表	..21, 22
・キャッシュ・フロー	..23
・利益還元	..24
・設備投資、減価償却費、研究開発費の推移	..25
・為替影響	..26
・2016年3月期2Q累計 旧セグメント別業績損益	..27~31
・海外のカジノ市場の状況	..32~34
・国内遊技場市場関連 統計データ	..35
・国内カジノトピックス	..36
・中期経営計画(2015~17年度)&長期構想案(2015.5公表)	..37, 38

資産の部：「たな卸資産」が増加したが、「現・預金」、「売上債権」減少により、前期末比 6億46百万円の減少

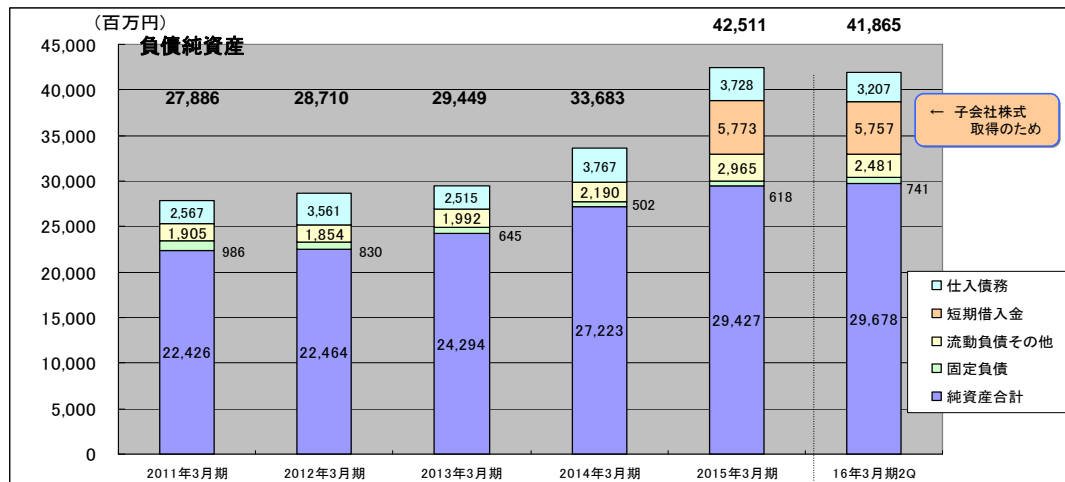


	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	16年3月期2Q
米ドル	83.15	82.19	94.06	102.91	120.28	119.95
ユーロ	117.57	109.81	120.77	141.60	130.38	135.00

2015年9月末時点の資産は、前期末と比較して、6億46百万円減少して、418億65百万円となりました。

主な内容としては、「たな卸資産」が7億55百万円増加しましたが、「現・預金」3億23百万円、「売上債権」6億71百万円が減少しております。

負債・純資産の部 : 「仕入債務」減少により、負債△8億96百万円、
純利益計上、「為替調整勘定」+1億等により、純資産+2億50百万円



自己資本比率 (%)	80.4	78.2	82.5	80.8	69.2	70.9
1株当たり純資産 (円)	831.19	832.63	900.46	1,009.07	1,090.80	1,100.08

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

22

負債は、仕入債務が5億21百万円減少したことなどから、前期末と比較して8億96百万円減少して、121億87百万円となりました。

純資産合計は、純利益の計上や為替換算調整勘定が増加したことで、前期末に比べて2億50百万円増加して、296億78百万円となりました。

自己資本比率は70.9%と前期末と比べて1.7%増加しております。

- ・営業CF：税金等調整前四半期純利益 704百万円
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減 △553百万円
- ・投資CF：長期貸付金回収 89百万円、投資有価証券取得 36百万円、
 有形固定資産取得 114百万円
- ・財務CF：配当金支払 282百万円

	'10/3月期	'11/3月期	'12/3月期	'13/3月期	'14/3月期	'15/3月期	'16/3月期 2Q
営業活動によるCF	2,697	△ 1,024	△ 729	918	2,098	1,801	△ 6
投資活動によるCF	△ 2,970	△ 1,345	△ 535	△ 166	△ 545	△ 6,991	△ 74
財務活動によるCF	△ 1,125	△ 111	△ 317	△ 537	△ 626	5,181	△ 332
現金及び同等物に係る換算差額	31	△ 561	△ 57	259	579	334	+ 90
現金及び同等物の増加額	△ 1,365	△ 3,042	△ 1,641	474	1,506	325	△ 323
現金等期末残高	11,193	8,150	6,508	6,982	8,488	8,814	8,491
フリー・キャッシュ・ フロー	△ 273	△ 2,369	△ 1,264	752	1,553	△ 5,190	△ 81

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

23

キャッシュ・フローの主な増減内容は、下記のとおりです。

◇営業活動CF △ 6百万円

- ・主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益 7億4百万円、
- ・主な減少要因は、
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減 5億53百万円

◇投資活動CF △ 74百万円

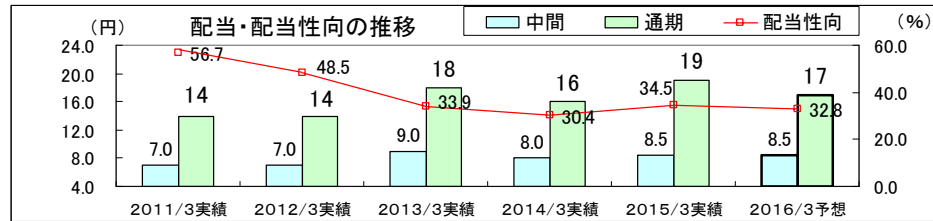
- ・長期貸付金回収 89百万円
- ・投資有価証券の取得 36百万円
- ・有形固定資産の取得 1億14百万円

◇財務活動CF △3億32百万円

- ・配当金支払 2億82百万円

◇現金同等物の換算差額 +90百万円

年間普通配当17円の予定（前期は記念配当2円実施）



※2013/3には株式上市20周年、2015/3には創立60周年の記念配当をそれぞれ2円含む

1株当たり利益推移(円)	24.7	28.9	53.1	52.6	55.1	51.9
--------------	------	------	------	------	------	------

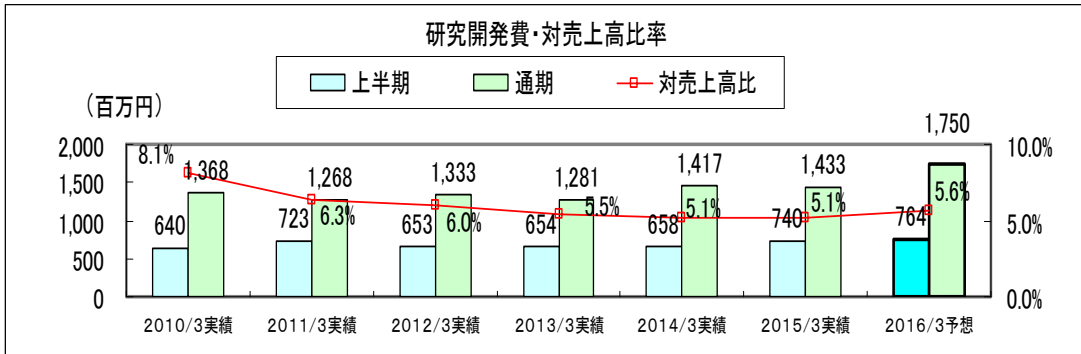
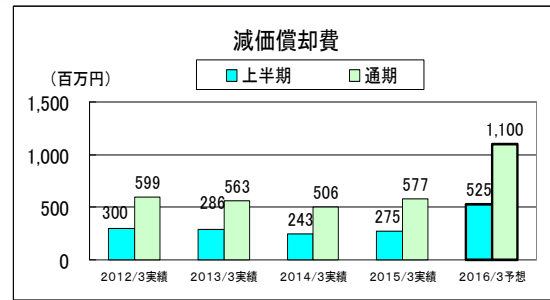
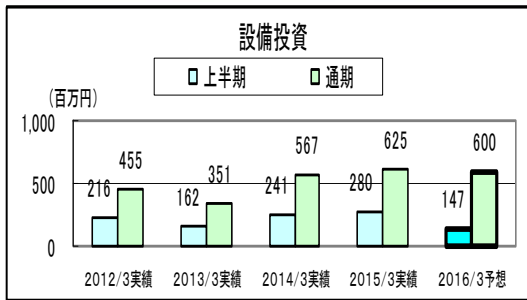
配当性向推移(%)	56.7	48.5	33.9	30.4	34.5	32.8
-----------	------	------	------	------	------	------

純資産配当率(%)	1.6	1.7	1.7	1.7	1.8	1.6
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

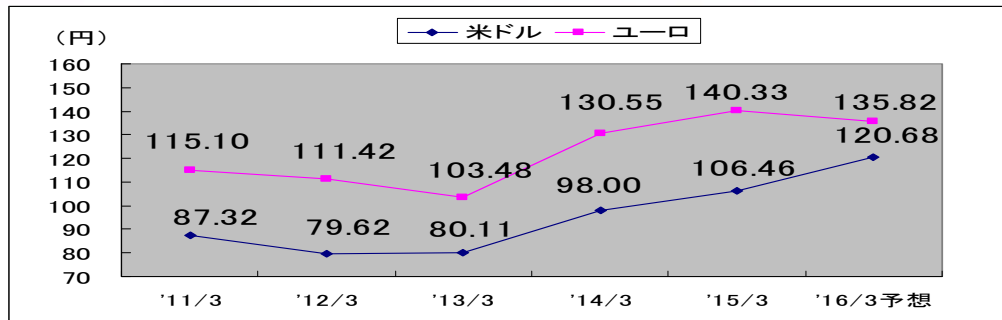
《業績連動型株主還元を継続》
 ・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上 を目指す

連結業績および配当性向を総合的に勘案しながら、
 長期安定的に配当水準の継続的向上に取り組む。

前期は「創立60周年記念配当」の2円を含めて、3円の増配とさせていただきますが、進行年度の配当については、
 前期の記念配当分2円がなくなり、中間8.5円、期末8.5円、
 合計で年間普通配当17円を予定しております。



設備投資、減価償却費、研究開発費の推移は、上記のとおりです。



1円当たりの営業利益への影響額 (百万円)

	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3予想
米ドル	33	0	9	18	11	10(プラス)
ユーロ	18	2	6	7	6	3(プラス)

《 進行年度における為替レートの想定、1円変動による為替感応度 (連結業績影響度) 》

◇期中平均レート (円)

	前期実績	通期予想	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	106.46	120.68	106
ユーロ	140.33	135.82	50

◇期末日レート (円)

	前期末	期末想定	為替換算 (百万円)
米ドル	120.28	120.00	30
ユーロ	130.38	135.00	0.2

当社グループでは、グループ内の海外取引に係る商流変更の実施により、為替影響を低減させる取り組みを実施してきたこともあり、為替感応度としては、資料に記載しておりますように以前と比べて大きく低減できるようになっております。

進行年度は、期初計画では

米ドル 120円、ユーロ 140円 としておりますが、

上半期は、

米ドル 120.50円 (前年同期比 18円28銭の円安)、

ユーロ 133.85円 (" 5円99銭の円高)

となりました。

上半期期末日レートに関しては、前期末の米ドル 120.28円、ユーロ 130.38円に対して、

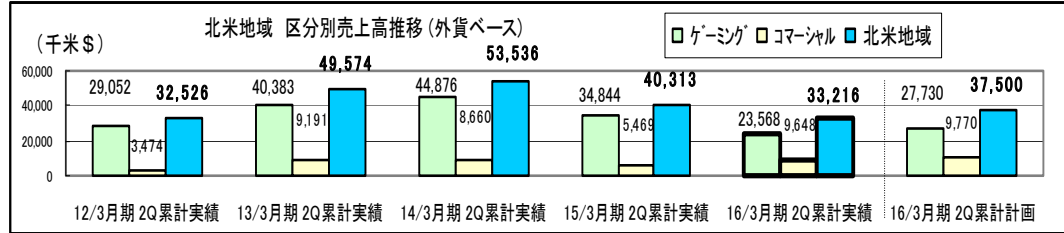
米ドル 119.95円 (33銭の円高)、

ユーロ 135.00円 (4円62銭の円安) となったことで、

外貨建資産の時価評価による為替差益が51百万円計上されました。

尚、通期、及び期末日レートは上記のとおりです。

	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	増 減	
				前年同期比	計画比
外貨売上高(千米\$)	40,313	33,216	37,500	-17.6% -7,097	-11.4% -4,284
邦貨売上高(百万円)	4,120	4,002	4,500	-2.9% -118	-11.1% -498
営業利益(百万円)	-0.8% △ 35	-1.6% △ 66	2.0% 90	-31	-156
平均為替レート(米\$)	102.22	120.50	120.00	+18.28	+ 0.50

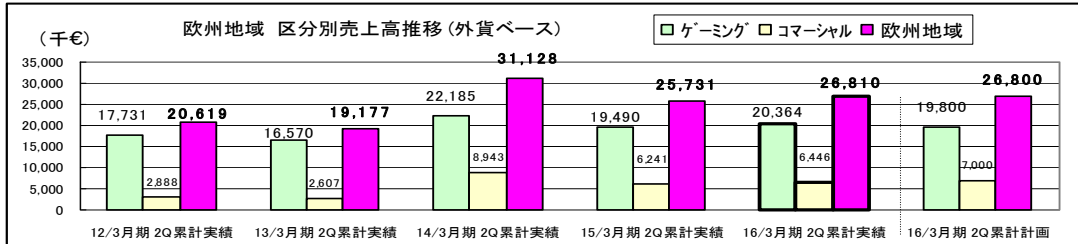


【構成比】

ゲーミング	89%	81%	84%	86%	71%	74%
金融流通交通	11%	19%	16%	14%	29%	26%

ご参考までに、31ページまで旧セグメント別での業績を表示しております。

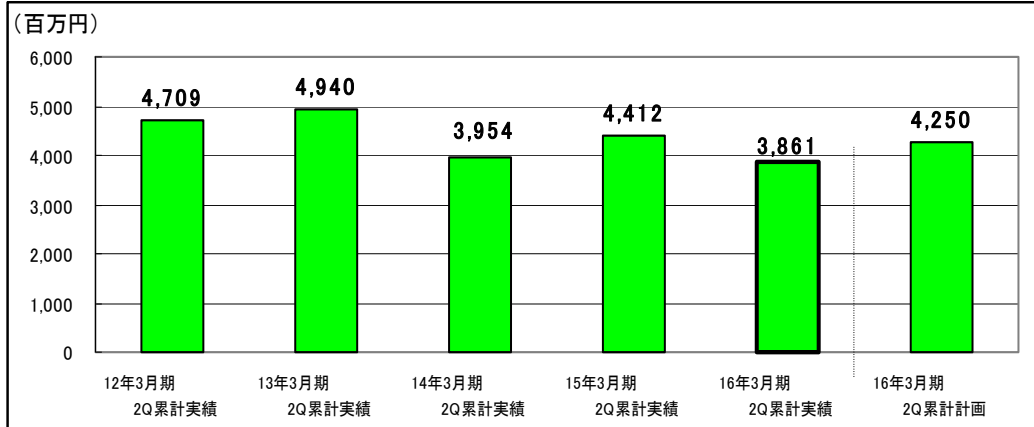
	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	増 減	
				前年同期比	計画比
外貨売上高(千€)	25,731	26,810	26,800	+ 4.2% +1,079	- + 10
邦貨売上高(百万円)	3,598	3,590	3,750	- 0.3% -8	- 4.3% -160
営業利益(百万円)	13.8% 495	5.0% 178	7.5% 280	-317	-102
平均為替レート(€)	139.84	133.85	140.00	- 5.99	- 6.15



【構成比】

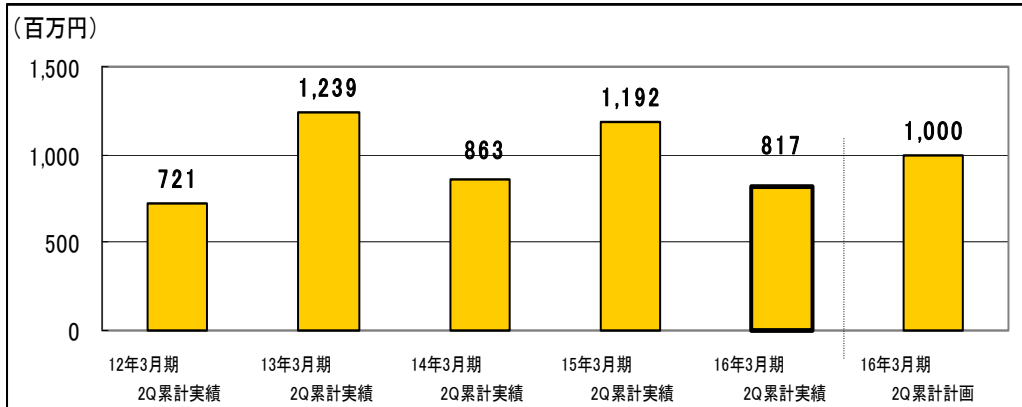
ゲーミング	86%	86%	71%	76%	76%	74%
金融流通交通	14%	14%	29%	24%	24%	26%

	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	増 減	
				前年同期比	計画比
売上高	4,412	3,861	4,250	-12.5% -551	- 9.2% -389
営業利益	-0.4% △ 16	-0.8% △ 30	1.6% 70	-14	-100



単位:百万円

	2015/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計実績	2016/3 2Q 累計計画	増 減	
				前年同期比	計画比
売上高	1,192	817	1,000	-31.5%	-18.3%
営業利益	8.1%	-2.1%	2.0%	-375	-183
	96	△ 17	20	-113	-37



参考資料 旧セグメント別業績

	売上高			営業利益			セグメント(経常)利益		
	2015/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計計画	2015/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計計画	2015/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計実績	2016/3 2Q累計計画
I. 日本地域									
日本金銭機械 (本社機能・ものづくり国内)	—	—	—	△ 75	△ 64	60	1,263	504	560
国内金融流通	1,192	817	1,000	8.1% 96	-2.1% △ 17	2.0% 20	8.1% 96	-2.1% △ 17	2.0% 20
遊技場向機器	4,412	3,861	4,250	-0.4% △ 16	-0.8% △ 30	1.6% 70	-0.3% △ 14	-0.8% △ 29	1.6% 70
II. 北米地域	4,120	4,002	4,500	-0.8% △ 35	-1.6% △ 66	2.0% 90	0.0% 2	-0.6% △ 26	2.7% 120
プリンター事業	—	2,230	2,000	—	16.3% 364	7.5% 150	△ 184	13.2% 294	4.0% 80
III. 欧州地域	3,598	3,590	3,750	13.8% 495	5.0% 178	7.5% 280	14.0% 505	5.4% 193	8.0% 300
IV. アジア地域 (ものづくり海外)	—	—	—	172	418	120	132	390	100
調整	—	—	—	86	△ 165	10	△ 743	△ 604	△ 350
連結	13,324	14,501	15,500	5.4% 723	4.4% 618	5.2% 800	7.9% 1,057	4.9% 705	5.8% 900
海外売上高	57.9% 7,719	67.7% 9,822	66.1% 10,250	('16.2Q実績補足)・日本金銭機械 (営業外) 受取利息・配当 540					

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

1. 米国

7月に発表された2014年度の米国カジノ市場(コマーシャル+トライバルの合計)は前年度比0.8%増の\$66.4bn(約8兆円)となった。施設数の増加を背景に、市場規模としては前年度に引き続き微増。内訳としては、コマーシャルカジノ市場は、前年度比0.3%増の\$37.9bn、トライバル(インディアン)カジノ市場は前年度比1.8%増の\$28.5bn。

◇米国カジノ市場規模推移

(金額: \$bn)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
コマーシャル	34.3	34.6	35.7	37.4	37.9	37.9
トライバル	26.5	26.5	27.2	27.9	28.0	28.5
合計	60.8	61.1	62.9	65.3	65.9	66.4
前年比増減率	- 3.3%	+ 4.9%	+ 2.9%	+ 3.8%	+ 0.9%	+ 0.8%

新設の動きは、下記のとおり。

・マサチューセッツ州

2011年にカジノを合法化。州内にスロットパーラーを一つ、カジノを含む統合リゾート(IR)を3つ設置することを決定。そのうち、スロットパーラーが6月24日に開業。

・ニューヨーク州

2013年にテーブルゲームの設置も認める4つのカジノ施設の開発を認め、事業者も既に決定。2017年に開業の見通しである。

米国カジノ市場の規模の推移については、

ここ数年は、施設数の増加もあり、市場規模は微増のペースが続いて
おりますが、地域間の競争は激しさを増しております。

新設の動きとしては、マサチューセッツ州やニューヨーク州で進行中
であります。

2. マカオ

2015年度の10月までの累計カジノ収益は前年同期比35.5%減の1,960億7,400万パタカ(約2兆9,622億円)となった。昨年6月度以降、17ヶ月連続で前年同月比でマイナスの状態が続いている。売上減については、中国本土富裕層を中心としたハイローラーと呼ばれるVIPカジノ客の流出によるものとされ、中国本土における経済の減速や反汚職キャンペーンの拡大などの影響が指摘されている。一方、マスゲーミング部門は比較的堅調に推移している模様(7~9月累計実績は、4~6月累計比+0.3%)。

◇マカオカジノ収益推移(1~10月累計) (上段: 億パタカ、下段: 前年同期間比 増減率)

2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
1,521.08	2,212.00	2,510.11	2,971.09	3,039.67	1,960.74
+58.8%	+45.4%	+13.5%	+18.4%	+2.3%	△35.5%

現在コタイ地区ではカジノ運営企業6社による新施設の建設ラッシュを迎えており、5月27日に「ギャラクシー・マカオ」第2期、そして10月27日に「スタジオシティ」(メルコクラウン)が開業した。今後は、来年のウイン(3月下旬)、サンズ、MGMの開業も控えており、これらが今後のマカオ再浮揚のカギとして注目されている。



ギャラクシー・マカオ
ホテルが3棟、10万平米のショッピングセンター、飲食施設等が追加された。



スタジオシティ
ハリウッド映画を題材にした大型IR施設

マカオ市場については、昨年6月に5年振りに前年同期比でマイナスとなって以降、17ヶ月連続のマイナス成長が続いており、1~10月累計でも、前年同期比で35.5%の減少となっております。

足元の市場縮小の要因としては、中国政府が進める反腐敗運動の強化や中国経済の成長鈍化、渡航ビザの規制強化、マスフロアでの全面禁煙策などが考えられております。

下半期については、渡航ビザの規制が7月より強化前の状態に緩和されたことやコタイ地区での新規の大型IR施設のオープンがプラスの要因になることが期待されております。

3. フィリピン

フィリピンはカジノ観光の国際拠点になることを目指しており、今後3年間に10億ドル規模以上の大型のカジノリゾートが2カ所に開業する予定（その内の1つがユニバーサルエンターテインメントの施設(2016/12完成予定)）。ただ中国経済の減速や人民元の切り下げ、またフィリピンを訪れる外国人観光客で最も多いのは韓国人だが、韓国ウォンの下落も各社の業績の先行きに影を落としている。

4. 韓国

現在、仁川空港周辺ではParadise & セガサミー、シーザース&リップー、済州島ではゲンティン・シンガポール&ランディング・インターナショナル・デベロップメント(中国の不動産事業者)と合計3つのプロジェクトが進行中(初期開業は2017年から2018年となる予定)。加えて、韓国政府は2015年下期に仁川空港周辺に新たに2つの事業者を指定する方向で、6月末に米国のカジノ「モヒガン・サン」の運営会社と合意。

尚、これらは全て、外国人専用カジノを含む統合リゾート計画である。

5. ロシア

ウラジオストックで「TIGER DE CRISTAL」がIR第1号として10月8日に一部オープン(グランドオープンは11月22日)。中国東北部、日本、韓国からフライト時間は2時間半と、マカオまでの4時間よりも近く、またマカオの来訪者に占める中国東北部の顧客の構成比は1ケタ%しかなく、ほぼ未開拓の市場である。



外観

フィリピン、韓国、ロシア市場の状況については上記のとおりです。

- ・遊技参加人口は1,150万人と、前年より180万人の増加。参加人口の増加は4年ぶりだが、業況の悪化傾向が続いていることから、業界関係者の景況感が伴わない結果とも言われている。
- ・「レジャー白書2015」公表にあたり、市場規模については、過去20年以上に遡って数値の修正が実施され、2014年度は対前年比で2.0%の減少となった。
- ・パチンコ機が300万台割れ、またパチスロ機のシェア増加の傾向が続いている
- ・新規店舗の大型化傾向が定着、小型店の市場淘汰の進行もあり、1店舗当たりの遊技機設置台数の増加傾向が続く

遊技場関連統計

	市場規模 (修正後) (億円)	" (修正前) (億円)	参加人口 (万人)	ホール数 (店)	パチンコ設置台数 (万台)	パチスロ設置台数 (万台)	合計 (万台)	1店舗当たり平均 遊技機設置台数 (台)
2005年度	348,620	287,490	1,710	15,165	60.5% 296	39.5% 193	489	323.1
2006年度	336,420	274,550	1,660	14,674	59.4% 293	40.6% 200	493	336.5
2007年度	301,770	229,800	1,450	13,585	64.4% 295	35.6% 163	458	337.9
2008年度	288,190	217,160	1,580	12,937	68.0% 307	32.0% 144	451	349.8
2009年度	282,420	210,650	1,720	12,652	70.1% 315	29.9% 134	450	356.2
2010年度	259,830	193,800	1,670	12,479	69.5% 316	30.5% 139	455	365.0
2011年度	254,890	188,960	1,260	12,323	67.8% 310	32.2% 147	458	371.9
2012年度	256,720	190,660	1,110	12,149	66.3% 304	33.7% 154	459	377.2
2013年度	250,050	188,180	970	11,893	65.3% 300	34.7% 160	461	387.8
2014年度	245,040	—	1,150	11,627	64.3% 294	35.7% 163	457	395.4

(注)・ホール数推移、パチンコ・パチスロ台数は年末時点の数値
 ・市場規模については、2014年度の発表に当たり、過去20年以上のデータが遡及修正された。

遊技場向機器事業を取り巻く経営環境に関する参考資料として「パチンコ・パチスロ市場規模」の直近10年の推移を示しております。

『レジャー白書2015』公表にあたり、日本生産性本部は、過去20年以上にさかのぼって「市場規模」の大幅な見直しを実施しました。その結果、これまでの市場規模のピークは1995年度の30兆9,020億円でしたが、2005年度の34兆8,620億円に修正されました。

尚、資料には、修正前と修正後の数値を記載しております。

店舗数は1980年以降ピークであった95年の18,244店を境に、96年から19年連続で減少となっております。直近の10年で見ますと、2004年の規則改正後に減少数が増え始め、パチスロが5号機に入れ替わった07年に1,089店の減少。その後、減少幅が小さくはなりましたが、2010年以降は毎年1～2%程度の減少となっております。

また、中小の廃業店舗がある一方で、遊技機台数が1,000台を超える大規模店の新規出店が増えており、1店舗あたりの設置台数が増加傾向にあります。

機種別に見ると、ここ数年はパチスロの設置割合が増えてきております。

【中央】

9月25日午後開催された衆議院本会議において、IR推進法案の扱いについて諮られ、賛成多数により継続審議とすることが決まった。これにより法案は次期国会以降、引き続き審議されること、及び内閣委員会への付託が正式に決定した。

国会の会期が大幅に延長されたこともありIR推進法案成立への期待も高くなっていたが、安全保障関連法の審議で野党の攻勢を強く受け、IR推進法案のみならず他の法案審議スケジュールを圧迫。その結果、IR推進法案は審議時間を確保することができなかった。

来年は通常国会が閉会した直後となる7月に参議員選挙が予定されており、賛否が大きく分かれることが予想される法案、例えばIR推進法案のような法案は審議がされ難い環境になることが想定されています。

【自治体】

・長崎

9月29日～10月1日、米ラスベガスで開催されたグローバル・ゲーミング・エキスポ(G2E)2015に長崎県と佐世保市が共同出展を行った。日本の自治体が海外のゲーミングイベントで独自のブースを持つことは初の試みであり、ブースでは、豊かな自然や新鮮な農水産物などの観光資源を紹介。来場者は、長崎県や佐世保市のIR構想やこれまでの取り組みにも高い関心を示していた模様。

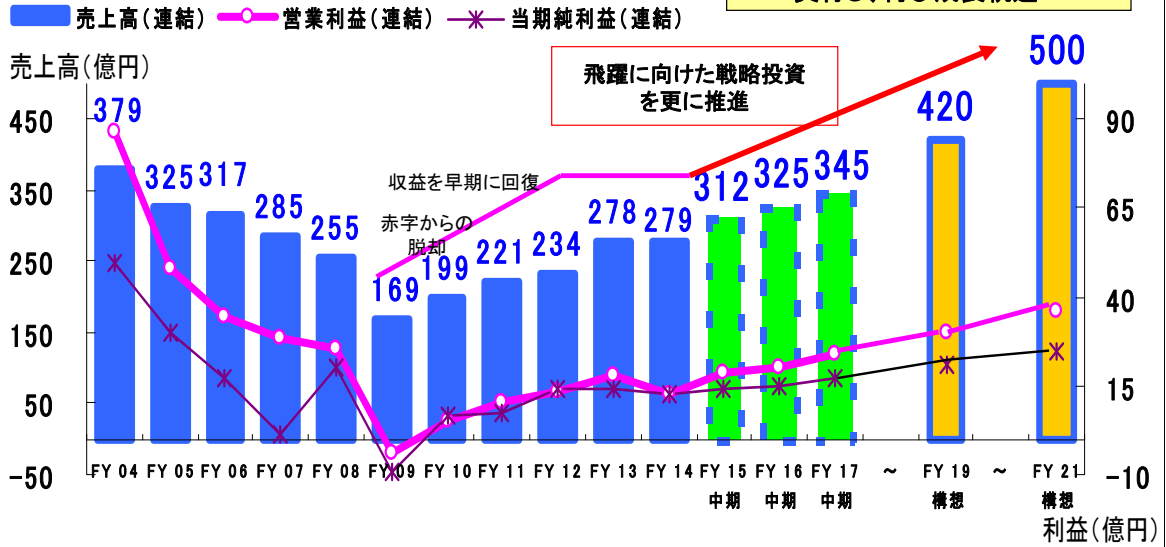
国内カジノに関する情報をまとめております。

国会の会期が大幅に延長されたこともあり、IR推進法案成立への期待も高まっておりましたが、安保関連法案の審議が長期化したこともあり、IR推進法案は実質的な審議がされることなく、次期国会以降へ持越しされることとなりました。

	2015/3月期 実績	中期経営計画			長期構想案	長期構想案
		2016/3月期	2017/3月期	2018/3月期	2020/3月期	2022/3月期
売上高	27,917	31,200	32,500	34,500	42,000	50,000
(率) 営業利益	4.6%	6.1%	6.2%	7.0%	7.1%	7.2%
営業利益	1,285	1,900	2,000	2,400	3,000	3,600
(率) 当期純利益	5.3%	4.5%	4.6%	4.9%	5.0%	5.0%
当期純利益	1,486	1,400	1,500	1,700	2,100	2,500
グローバルゲーミング	13,103	15,250	16,280	17,370	18,100	21,900
海外コマース	3,914	4,450	4,620	5,030	9,100	11,700
国内コマース	2,329	2,400	2,600	2,700	3,300	3,400
遊技場向機器	8,571	9,100	9,000	9,400	11,500	13,000
ROE (%)	5.2	4.8	5.0	5.5	6.0	7.0
期中レート (米ドル/円)	106.46	120.00			120.00	120.00
" (ユーロ/円)	140.33	140.00			140.00	140.00

今年の5月に、進行年度をスタートとした3ヶ年の「中期経営計画」と
2020年前後までを視野に入れた「長期構想案」を策定いたしました。

'攻めの姿勢'で成長戦略を確実に
実行し、再び成長軌道へ



	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY19	FY21
売上高	37,947	32,594	31,785	28,543	25,572	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	27,917	31,200	32,500	34,500	42,000	50,000
営業利益	8,644	4,824	3,431	2,849	2,561	△ 363	539	1,052	1,330	1,761	1,285	1,900	2,000	2,400	3,000	3,600
当期純利益	4,983	2,969	1,758	157	2,009	△ 940	666	778	1,432	1,418	1,486	1,400	1,500	1,700	2,100	2,500

(百万円)

2016年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

日本金銭機械株式会社 (日本語)

<http://www.jcm-hq.co.jp>

JCM Global(English)

<http://jcmglobal.com/>

過去の決算説明会資料は、ホームページ(日本語)でもご覧いただけます。

「株主・投資家の皆さまへ」⇒「IRイベント」⇒「IR説明会」

お問合せ先 : 経営企画部 広報・IRグループ 仲谷 06-6703-8400(代)

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。